

紙の本と電子書籍

漆間智美

1. はじめに

Kindle や kobo といった電子書籍リーダーやタブレット、スマートフォンの普及により、以前は紙ベースでしかなかった読書スタイルの多様化が進んでいる。Apple 社の iPod や Sony のウォークマンなどの出現により、音楽がデジタル化されて、何千曲という音楽を持ち歩くことができるようになり、これをきっかけに、音楽を聴く習慣自体が変わり、CD や MD が比較的ニッチなメディアという周縁的な存在になっているという現象が起りつつある。こういった現象が、いつか読書の世界にも訪れるのだろうか。

しかし、私は紙の本の方が読書に向いていると考えた。このレポートでは、2 節で五感、3 節でインテリアデザイン、4 節で定着度の面から紙の本の利点を述べていき、5 節で結論として、紙の本の方が読書に向いている、かつ、本の内容がより定着するということを主張する。

2. 五感

まず、紙の本の利点として、質感や、読み進んだ場所が物理的に分かるなど、五感への刺激がある点が挙げられる。紙の本を読み進めれば、読み進んだ量と残りのページは紙の厚さで一目瞭然だ。さらに、新しい本であれば、独特のにおいがして、本を読んでいるという実感が湧く。表装や装丁のデザインなどの楽しみがあるというのも、紙の本ならではの醍醐味だ。さらに、ページをめくる動作というものが挙げられる。これは、紙の本ならではの触覚を伴う動作であり、電子書籍リーダーやタブレット、スマートフォンの場合だと、この動作が画面を縦横にスクロールするという動作に置き換わる。スクロールする動作は画面上での動作であるため、感覚的に、読んだ量、残りの量が分からない。さらに言うと、電子書籍の場合、残りのページが分からないので、「続きを読まなければ」と、視覚的に訴えてくる力に乏しいのだ。また、物質的な紙の本であることによって、読了感、本を読み終えた時の達成感も、本の厚みや重さ、冊数などから得ることができる。電子書籍リーダーやタブレット、スマートフォンの場合、そもそもコンテンツがデジタルデータであるため、視覚的にも触覚的にも読了感は得られにくく、本を読み終わったという達成感は紙の本に劣るだろう。

3. インテリアデザイン

物理的な本棚というものは、自分の人となりをはかの人に無言で紹介するものではないだろうか。紙の本は本棚にカテゴリズしやすいというメリットもあるが、私たちが公共のスペースに置く本、置かない本、そしてその並べ方は、自分の趣味や読書傾向、興味・感心ごと、世間に自分をどう思っているかを静かに語るものだ。電子書籍の場合、自分がどんな本を読んでいるかほかの人の目に触れることはほとんどないが、人の目に触れる紙の本は、会話を始めるきっかけにもつながるのだ。

4. 定着度

紙の本の利点として、内容が記憶に残りやすいという点が挙げられる。これは、ノルウェーのスタヴァンゲル大学で、アン・マンゲン氏によって実験が行われている。(Want to Remember What You Read? Switch to Paper Inc. Laura Montini 訳：伊藤貴之) この実験の内容は次の通りだ。50人の被験者に28ページの短編小説を読んでもらう。被験者の半分はkindleで、残りの半分は紙の本で読み、重要なシーンをどれくらい思い出せるかのテストを実施した。テストの結果は、次のようなものだった。「物語の背景」、「登場人物」、「ストーリーの詳細」に関する設問に関しては、どちらのグループも同程度の成績が得られた。しかし、物語中の出来事が発生したタイミングを尋ねた設問に関しては違った。電子書籍で読んだグループは、14のストーリーイベントを正しい順序に並べるテストにおいて、紙の本で読んだグループと比べると、著しく悪い成績を示したのだ。この結果に関して、実験を行ったアン・マンゲン氏は、「物語の進行に合わせて紙をめくっていくという作業が、一種の感覚的な補助となります。すなわち、触覚が、視覚をサポートするのです」と述べている。ページをめくっていくという感覚的な刺激と、本の中で発生した出来事のタイミングとがリンクして、より本の内容を強く印象付ける作用を及ぼすのだろう。これによって、紙の本で読書した場合の方が、内容の理解度も、記憶の定着度も増すのだと考えられる。

また、書き込みが容易であるということも、本の内容の定着度に大きく関与する。紙の参考書や教科書、単語帳などで勉強する際、重要な箇所にマーカーやペンで線をひいたり強調させたり、付箋を貼ったりページに折り目をつけたりなど、書き込みの自由度が高い。書き込みの方法が本を読む人の数だけあるため、独自の勉強法が生まれ、より効果的に本の内容を理解し、定着させることができるのだと言えよう。

さらに、紙の辞書を利用する際、目的の語を引こうとすると、その語の綴りや漢字を見ながら引くか、記憶を頼りに引くことになる。それゆえに、綴りや漢字が視覚を通して記憶に強く残る可能性も高いと考えられる。電子辞書の場合、綴りや漢字を曖昧にしか記憶していなくても、候補の語を示してくれるため便利ではあるが、それゆえに、それが語句の定着度に繋がる可能性が低い。

5. まとめ

スマートフォンやタブレットなどを使いこなす人にとっては、デジタル処理ができたり、持ち運びに便利だったり、電子書籍の方が魅力を感じるかもしれない。

しかし、上記で述べたことをまとめると、紙の本の方が、触覚を伴う読書体験として脳に与える刺激的にも、学習面での定着度に関しても、紙の本の方が優秀であるということが言えよう。

参考文献

- 紙の辞書、電子辞書—その利点、弱点に関するメモ [jiten.cside3.jp>dictionary_use](http://jiten.cside3.jp/dictionary_use) (2015年1月12日確認)
- 徹底比較：紙の本 vs 電子書籍 denshishoseki-mado.jp (2016年1月10日確認)
- Gigazine gigazine.com (2015年12月9日確認)
- Hatena Blog 景虎日記 [10kgtr.net simplism.hatenablog.com](http://10kgtr.net_simplism.hatenablog.com) (2015年11月19日確認)
- What to Remember What You Read? Switch to Paper|Inc. (2016年1月26日確認)
- WIRED NEWS wired.jp (2015年12月9日確認)
- Wikipedia (2016年1月4日確認)